

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女性, 10歳代)あります。血清型・毒素型は, O157(VT1V T2)で, 症状は腹痛・水様性下痢・嘔吐・発熱です。感染地域は国内で, 推定感染経路は経口感染です。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は, 腹痛です。推定感染地域は国内で, 感染経路は不明です。
- ・ 梅毒の報告が2例あります。1例目: 早期顕症・Ⅱ期, 男性(20歳代), 推定感染地域は国外(アメリカ合衆国), 2例目: 無症候(無症状病原体保有者), 男性(60歳代), 推定感染地域は国内です。感染経路はいずれも不明です。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.03(40例)で, 3週連続で増加しています。例年, 夏から秋にかけて減少した後, 冬季に向けて増加しますので, 今後の動向に御注意ください。
- ・ A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は0.72(28例)で, 2週連続で増加しています。例年, 冬から夏前まで報告数が多い状態が続きますので, 今後の動向に御注意ください。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.44(17例)で, 前週(0.21)よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 5例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 5例)うち喀痰塗抹陽性 なし【1月以降の累積報告数 383例(肺結核 193例, その他結核 71例, 潜在性結核感染者 119例)うち喀痰塗抹陽性 106例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 33例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 17例】
- ・ 五類: 梅毒 2例(早期顕症・Ⅱ期 1例, 無症候(無症状病原体保有者) 1例)【1月以降の累積報告数 7例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.02	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.92	75
	② 手足口病	1.08	42
	③ 水痘	1.03	40
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.72	28
	⑤ RSウイルス感染症	0.44	17
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

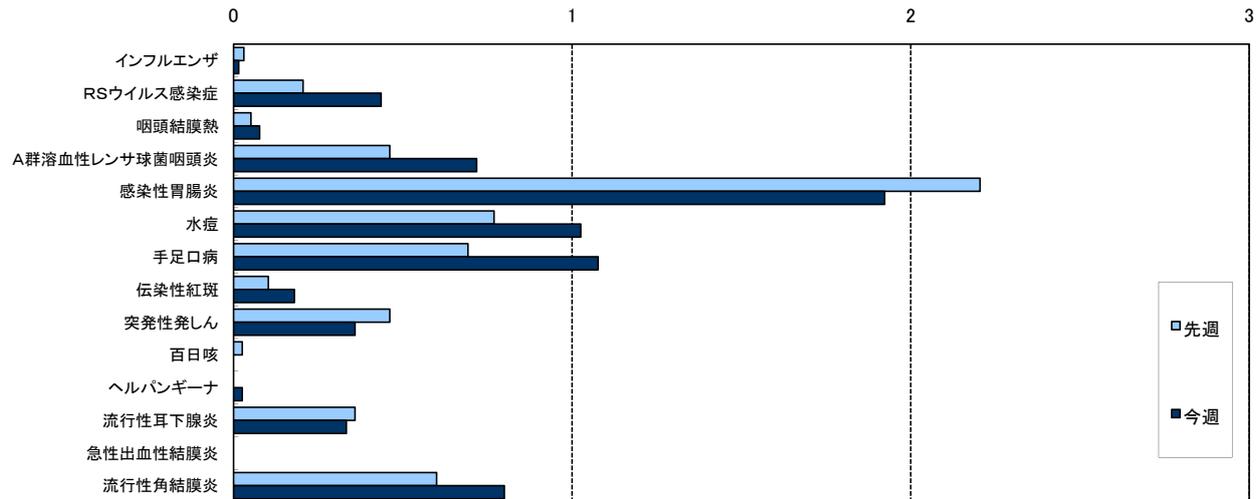
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

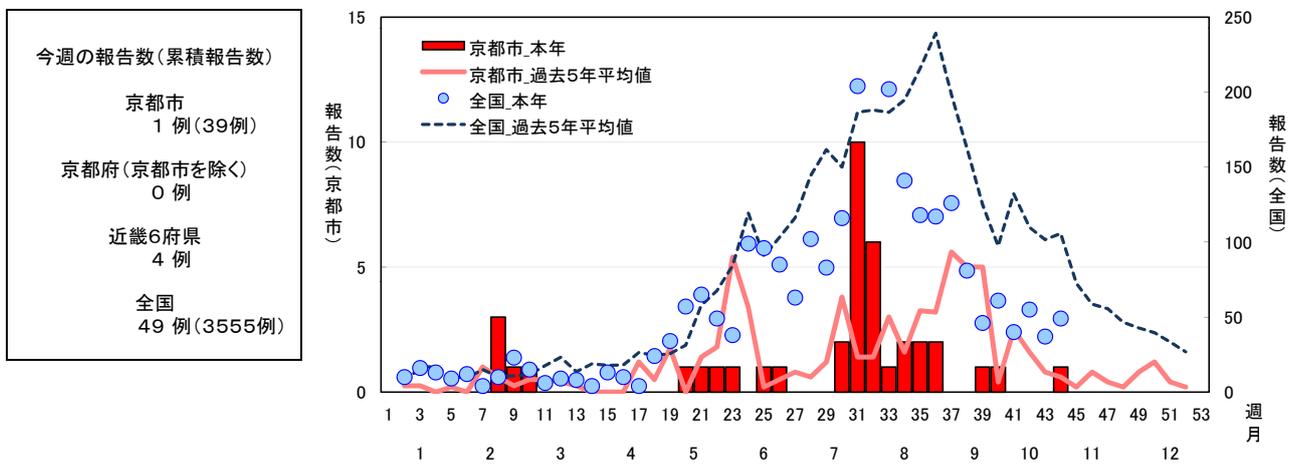
(注) 京都市のデータは, 平成23年11月10日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第44週)と先週(第43週)の定点当たり報告数の比較

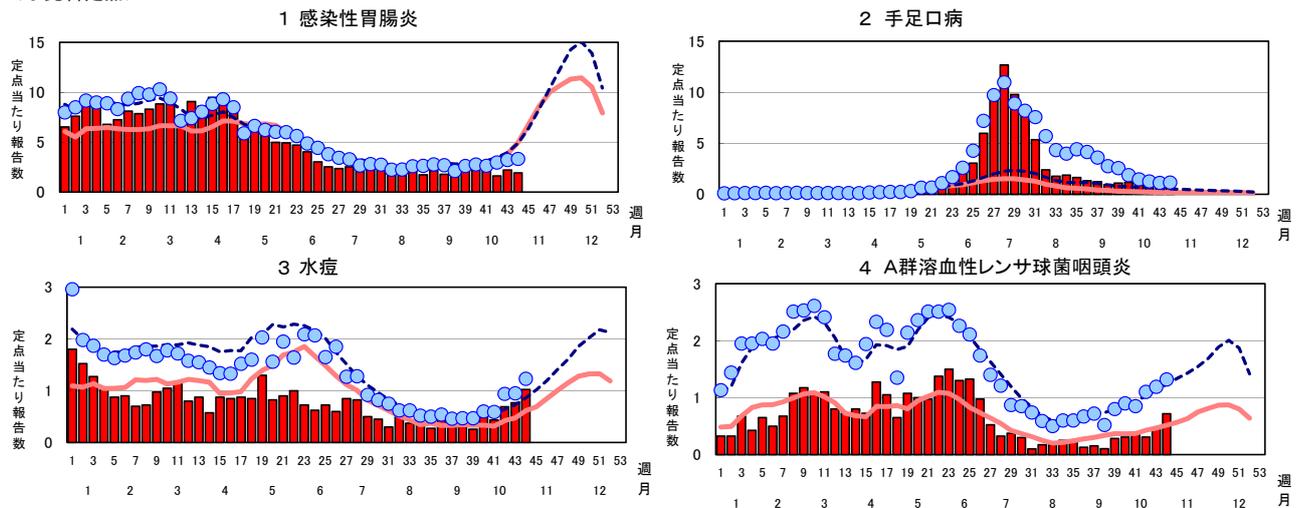


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

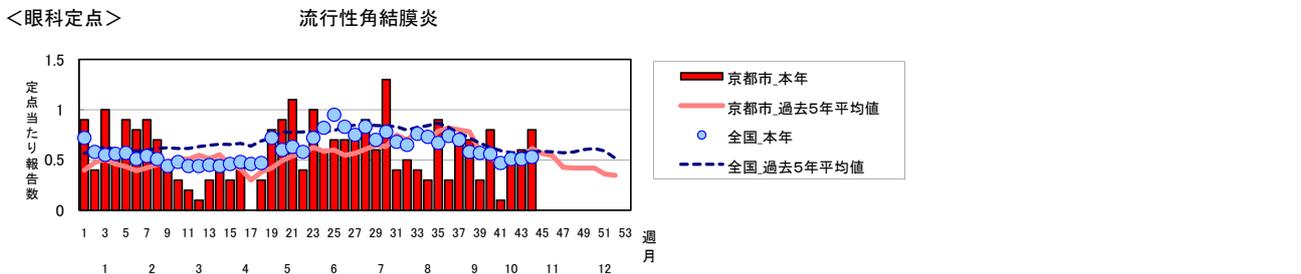


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第44週(10月31日～11月6日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.44(17例)で、前週(0.21)よりも増加しています。例年、12月にピークを迎えますが、本年は第37週(9月12日～9月18日)から報告数が増加し、過去5年平均値を大幅に上回っていますので、今後の動向に注意が必要です。

行政区別では、11行政区のうち8行政区(東山, 下京, 右京を除く)で報告があります。

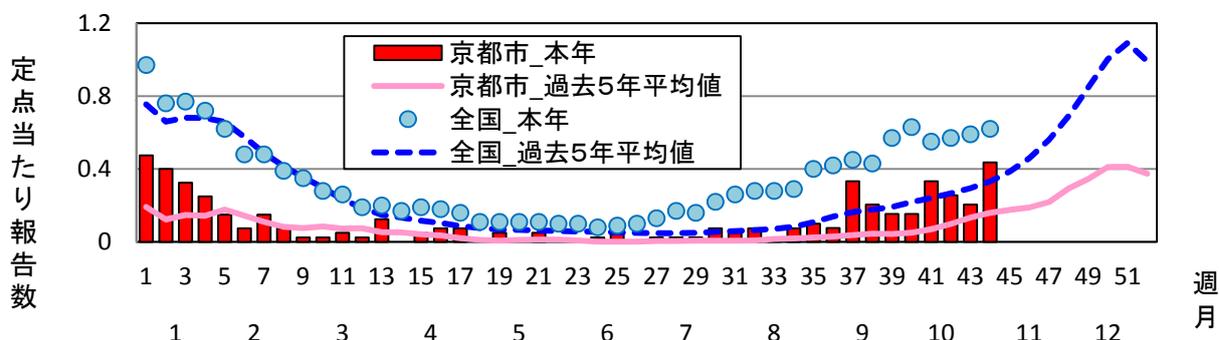
年齢階級別では、1歳が9例(52.9%)と最も多く、次いで6箇月～11箇月が4例(23.5%)となっており、0歳～1歳で82.4%を占めています。

RSウイルス検出は細胞培養での分離がゴールドスタンダードとされ、当研究所での検出も分離に従っていますが、抗原検出キットの感度は良好で診断が容易となったことも、報告数の増加に関係しているのかもしれない。

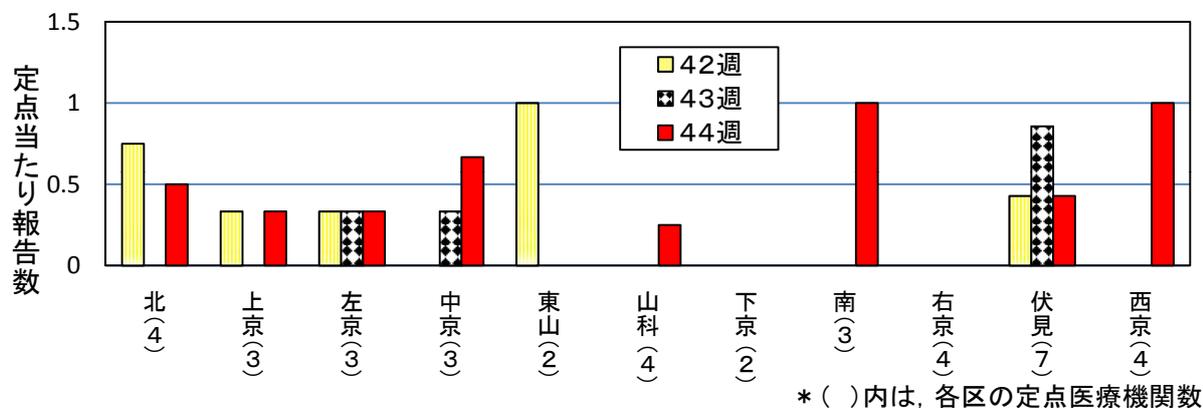
10月17日よりRSウイルス抗原検査の診療報酬算定要件が拡大され、これまでの「入院中の患者」に加え、「乳児(満1歳未満の子ども)」及び「パリーブズマブ製剤(商品名:シナジス)の適応患者」でも、診療報酬を算定できるようになりました。以下を御参照ください。

<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T111019S0010.pdf>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



行政区別 定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移(第42週～第44週, 過去5年平均値)

